

# MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

むさしのパークライフマガジン

MPM

2021  
AUTUMN  
WINTER  
VOL.15

YOUR PARK LIFE : Park Life × そなえ

FOCUS: たのしむ防災・防災キャラバン in 六仙公園

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。





都立野川公園

# Park Life × そなえ

いつもの公園で  
たのしみながらできる  
非日常への準備。

防災への意識が高まっている近頃、公園を利用すればもっとのしく対策ができることを知っていますか？  
家庭の防災リュックを持って、非常食でピクニックを試みたり、公園にある防災設備を探し歩いてみたり。公園の防災イベントに参加すると、ご近所コミュニティが災害のそなえになるなんてことにも気付けたりします。大雨による水害やいつ起こるかわからない地震、さらに新型コロナウィルスの流行など、災害と日常が隣り合わせの時代。いつも散歩をする公園で、防災についてもう一度考えてみましょう。







## 1 防災リュックを ひっくり返して ひろげちゃう

## 防災リュックを持って 公園にお出かけしてみよう。

災害時の対策として、防災リュックを備えているご家庭が増えています。でも、防災アイテムや非常食を詰めてはいるものの、使ってみたことがないという方も多いのでは？ そんな時は非オススメしたいのが、防災リュックを使った公園ピクニック！ 防災リュックの中身を全部広げて確認しておく、いざという時、落ち着いて取り出すことができます。使い方がよくわからないアイテムも、家族で遊びながら使ってみると、みんなが使い方をマスターできます。防災ラジオの手動充電をみんなで楽しんだり、大きな風呂敷に包まれて芝生に寝転んでみたり…。お腹が空いたら非常食をお弁当代わりに食べてみましょう。手軽に食べられて、家族の好みも確認できる上、ちょっとしたサバイバル気分も味わえます！

1 公園なら散らかることなんて気にせずにもノを広げることができます。中身を全部出してみると、一目瞭然。なにが入っているのか家族みんなで確認して、使えるようにしましょう。必要なものは、それぞれの家庭ですこしずつ違うもの。何が必要か話し合っておくことも大切です。



## 2 防災アイテムを 使って 遊んでみる

2 防災ラジオはソーラーパネルや手動ハンドルなどの発電装置がついたもの、電池が必要なものなど種類があるので要確認。手動のものをフル充電させる競争をしても楽しい。

3 大きな風呂敷があると目隠しや防寒、レジャーシートなど様々な使い方ができます。子どもたちを包んでゆらゆらハンモック遊びをすると大はしゃぎ間違いなし。

4 てぬぐいもあると便利なアイテム。折った手ぬぐいを口元にあて、頭の後ろで結べばマスクに変身。いろんな手ぬぐいを使えばファッションショーも!? タオルよりも乾きが早いので、洗ってすぐに使えます



## 3 非常食を食べて サバイバル気分!



5 非常食だからと言って、好きでないものをストックしておく必要はありません。非常食も年々多様になっていて、中華丼、カレー、ガトーショコラまで! 公園でみんなでわいわい食べてみて、家族がおいしいというものをストックしておきましょう。おいしければ、賞味期限まで待たずにピクニックや日常でも楽しく食べて、また買い足す…を繰り返す「ローリングストック」ができます。

## 公園がそなえているものを知っておこう。

地域の憩いの場である公園は、災害時にも重要な役割を果たします。広いスペースのある公園は、災害等から身を守る避難場所となるほか、電源やガス、水道が使えなくなったときに役立つ設備があります。ただ、それらの設備は公園のなかで、ひっそり置かれているので、日頃にはだれもあまり意識したことがないはずです。公園に置いてある「防災ガイドマップ」(14ページ参照)で確認をすると、足元のマンホールや、電灯などと、よく見みると防災のための機能がそなえられているものがたくさんあります。家族で散歩をしながら探してみると、「これってそういうことだったんだ!」という発見ができて、公園のそなえがぐっと身近になります。







ただの自動販売機  
ではないのです。



2

トイレでも倉庫でもない  
ナゾのたてものが…

3

このパネルは  
なんのため？



#### 1 災害救援ベンダー

(野川公園、武蔵国分寺公園ほか)

停電が起きたときにも、飲み物を無料で供給することができます。自動販売機に貼られた、黄色いステッカーを目印に探してみてください。

#### 2 震災対策用応急給水槽 (武蔵野公園)

地下に1500㎡の新鮮な水がたくわえられています。地域で断水した際には飲料水を配布。

#### 3 ソーラー照明灯

(武蔵野公園、野川公園ほか)

太陽光で蓄電し、停電時にもあたりを照らします。夜間、公園の入り口は、遠くからも「避難場所」の目印が見えるようになります。

#### 4 防災トイレ

(武蔵国分寺公園、六仙公園ほか)

災害時にはマンホールの蓋を開け、目隠し用のテントを張ることで仮設トイレに変身します。

#### 5 かまどベンチ (六仙公園)

かまどベンチには、様々な種類があります。これはベンチの下に組み立て式のかまどが収納されています。火の扱いには要注意ですが、燃料と薪を使用すれば暖をとったり、食事を作ることでもできます。



1

## 公園で地域の防災力を高める！

防災で本当に大切なのは、地域コミュニティの力だと言われています。“犬の散歩の途中で顔を合わせる” “人と挨拶をする” “公園のボランティアと一緒にしたことがある” “イベントの時、話をしたお店が近所にある” そんな顔の見える関係がいざという災害の時に、誰かのためにほんのちょっと手助けをしたり、相手のことを思いやりする心を育て、結束力を高めます。

「防災キャラバン in 六仙公園」は、地域の人同士が防災を考え、楽しむためのイベントとして、出展者や公園管理者・参加者のみんなが一緒になってにぎやかに開催されています。また、公園の花壇ボランティア活動なども、地域の人たちが集まって交流を深める場となっています。公園はこうした防災の体験やコミュニティを育む場を提供することによって、非日常へのそなえに役立っています。



## 地域みんなが一体となる 防災キャラバン

2



3

### 防災キャラバン in 六仙公園の様子

- 1 実際の火を使って消火活動をする体験はなかなかできません。家族やご近所の人と一緒に体験することで、初期消火の役割などを考えるきっかけになります。
- 2 避難した際にも楽しく過ごすために、身近なものを打楽器にして、みんなで太鼓の演奏を体験。知らない人同士でも一体感が得られあっという間に仲良しに。
- 3 各地の珍しいオモシロ缶詰などを展示販売して、食べてみるコーナー。災害時でもおいしく楽しくは大切なこと。イベントで楽しく食べて、家族のお気に入りを見つけてストックしても Good !

(※写真は 2017～2019 年のものです)

## 地域のコミュニティを育む 公園ボランティア

- 4 公園で活動する花壇ボランティアなどは、近所の人と楽しめるコミュニティ。こうした何気ない結びつきが重なることで、地域の防災力が上がっていきます。



4

## たのしむ防災 防災キャラバン in 六仙公園



六仙公園では、地域の人たちが気軽に参加でき、楽しく体験をしながら、「いざというとき」のそなえや工夫を持ち帰ってもらえるようなイベント「防災キャラバン in 六仙公園」を行っています。その担当をしている公園管理者と公園の防災担当者と一緒に、発案者である実行委員の石川睦美さんにお話を伺いました。

「防災キャラバンを企画するきっかけとなったのは、親しい友人が東日本大震災で被災したことでした。“非常食を美味しくアレンジする方法を見つけた!”とか“この防災グッズの新しい使い方を発明した!”とか、避難所生活の中でも楽しみを見つけていく友人の姿を見て、たくましさや生きる力の強さを感じたんです。長い非常時の暮らしの中で、人間的な楽しみを見つけていく工夫や知恵はすごくクリエイティブなことだし、防災も楽しみながら学ぶことができたら、普段の生活にもっと馴染むんじゃないかと思いました」。そう話してくれたのは、防災キャラバン実行委員会の石川睦美さん。“楽しむ防災”をテーマにしたイベントで、防災を特別なものではなく、普段の暮らしの中にあるものとして参加者に接してもらいたい。そう考えた石川さんは実行委員会を設立、公園スタッフや東久留米市防災防犯課や地域の消防団などと連携しながら、2016年に「防災キャラバン in 六仙公園」を初開催しました。



石川睦美

防災キャラバン実行委員会。地域創造屋「くるめアパートメント」主宰。六仙公園の場所にかつて建っていた東久留米市第八小学校の卒業生でもあり、六仙公園への想い入れも強くある。

そんな石川さんに、防災教育普及協会の宮崎賢哉さんは「防災で大切なのは、“災害は日常の延長線上にある”と気づくこと。日常の食事、遊び、お店や地域の人が災害時にどうなるのか、自分ならどう行動するのかを考えてもらうことなんです。石川さんが考えてくれた防災キャラバンの企画は、まさにその目的の部分を、楽しみながら学ぼうというものでした」と共感して協力しています。



宮崎賢哉

一般社団法人防災教育普及協会、災害支援・防災教育コーディネーター。都立公園の指定管理業務にも携わり、防災イベントや懇談会などを企画・監修などを行っている。



スタンプラリーで楽しく防災体験！



人力で発電に挑戦します。

「屋外での開催なので、電源が整わないなどの不便さはあるのですが、ライフラインが整わないという状況は災害時と同じ。地域のみなさんから上がった“これやりたい!”の声を無理なく実現できるように、公園側でもサポートしています」と、公園スタッフの矢口直生さん。地域のまんなかにある公園を舞台にして、市民や行政と一緒に連携して防災力がパワーアップしていくこのような仕組みづくりは、公園の取り組みとしてこれからもますます力をいれていきます。

防災キャラバンでは、他ではあまり見るのできないユニークな楽しいコーナーがたくさんあります。避難行動を疑似体験する「防災・減災スタンプラリー」や、普段も災害時にも役立つグッズを販売する「防災マーケット」、ダンボールを使ってトイレや住居を作る「ぼうさいピクニック」、避難所でも健康に過ごすための「防災ヨガ」など、いざという時に役立つ知識を楽しく身につけるコーナーは、大人にも子どもにも大人気。会場のあちこちで、楽しそうな笑い声や、「これも防災に使えるんだ！」などの感想が聞こえてきます。出店者や参加者、市の防災担当者や消防団も含め、同じ地域に住む人同士が顔馴染みになり、関わり合うことで、いざという時に助け合う気持ちも生まれてくるのです。「防災は、わざわざそなえるものではなく、普段の生活のベースにあることが大切です。「楽しむ防災」がテーマのこのキャラバンでは、災害時に役立つアイデアや工夫を考えるきっかけとなるような、楽しい体験コーナーを多く作っています。大人が心から楽しんでいるのを見ると、子どもも安心して楽しむことができる。そんな空間づくりも大切にしています」と、石川さん。



矢口直生

野川公園副所長兼自然観察センター長。「防災は継続することが大事」を軸に、身近な公園を活用して地域の防災力アップをはかる取り組みを推進。公園でのボランティア活動にも力を入れている。

# 防災ガイドマップ

— 野川公園・武蔵国分寺公園・武蔵野公園・六仙公園 —

公園では、防災設備や設置場所を解説した防災マップを用意しています。

紹介した設備の他にもAEDや多目的トイレ、水飲み場、授乳室など災害時に役立つ施設の場所がわかります。

また、避難の流れや災害時に役立つサイトなどの紹介もあります。



野川公園



武蔵国分寺公園



武蔵野公園



六仙公園



防災ガイドマップは、むさしのの公園サイトでもチェックできます。

むさしのの都立公園で  
配布しています！



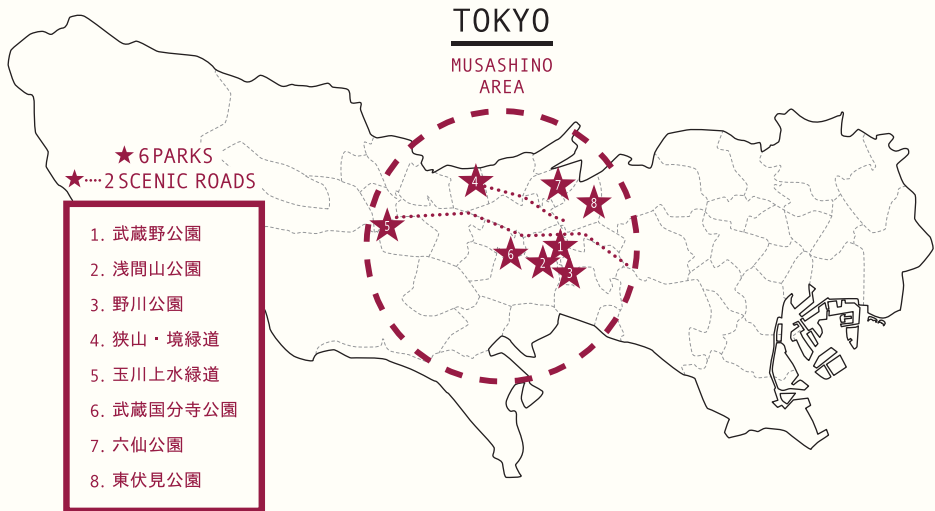
## 「公園を楽しむ PLAYBOOK」完成！

いつも行く公園で、今日とはどんなことをしてあそぼう？ 自然いっぱいの公園にはあそびのヒントがたくさん！ いつもの公園でも、少し視点を変えるだけで新たな発見があるかもしれません。この冊子では、公園で働く「パークレンジャー」ならではの目線で、感覚を研ぎ澄まして生きものを楽しむアイデアを紹介します。きっと今まで知らなかった生きものの魅力や不思議に出会えるはず。お子さまと一緒に、この冊子をヒントに目の前に広がる自然を思いっきり満喫してみませんか？

## 西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめています。

構成団体：西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズノスポーツサービス(株)・(一社)防災教育普及協会



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：2021年12月10日

デザイン：川上明子

文：安達友絵

写真：NPO法人NPObirth / 町田 誠(国土交通省PPPサポーター) P2~3 / 井上 茂 P4~7, P8上, P9上, P12下, P13右上・右下

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ / はけの道編集室(合同会社ニーヨリー)

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立野川公園(撮影:矢口直生)

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINEのバックナンバーは、むさしのの都立公園のHPで見ることができます。  
<http://musashinoparks.com/magazine/>



MUSASHINO  
PARK-LIFE  
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>